

松江市監査委員告示第6号

地方自治法（昭和22年法律第67号）第199条第12項の規定により、平成23年3月25日付け松江市監査委員告示第2号で公表した松江市公営企業会計定期監査の結果に基づき、松江市長から措置等を講じた旨の報告がありましたので、次のとおり公表します。

平成23年6月7日

松江市監査委員 小松原 操
松江市監査委員 児玉 泰州
松江市監査委員 加藤 富章

措 置 報 告 書

監 査 結 果	措 置 状 況
<p>(1)水道局（水道事業会計）</p> <p>① 現在の資金運用については、水道局で定められた基本ルールに従って水道事業会計単独での運用を実施されている。地方公営企業法施行令第22条の6第1項においては、公営企業の業務に係る現金については金融機関への預金その他の最も確実かつ有利な方法によって保管しなければならない旨が規定され、また、行政実例において、同一地方公共団体内における公営企業会計を含めた各会計相互間の歳計現金の繰替使用ができる旨が示されていることを勘案すると、運用の様々な方法について検討する余地があるものとする。今後、松江市全体としての有益な資金運用について、一般会計とも協議されることを望むものである。</p> <p>② 玉湯水道事業においては、過去数年から現在に至るまで、有収率が低下傾向にあり、なかなか回復しない状況については、非常に懸念されることである。老朽管の更新については、計画的に取替えを実施されているところであるが、引き続き、漏水調査や修繕に地道に取り組みながら対策の強</p>	<p>(1)水道局（水道事業会計）</p> <p>① 現在、国債の利回りが同期間の大口定期預金の利回りを下回っている状況にあり、長期の資金運用は大口定期預金のみで行っています。</p> <p>しかし、より効果的な資金運用を行うため、平成23年度は国債の購入を行うこととし、予算措置をしました。</p> <p>今後も、より効果的で有益な資金運用を行うため、各種研修会や、証券会社が主催する勉強会等に積極的に参加し、今後も償還時の債券の利回りや定期預金等他の金融商品の比較検討、その他の債券運用の可能性についても引き続き検討していきます。</p> <p>また、市全体の有益な資金運用について、一般会計から協議があった場合は、検討していきたいと考えています。</p> <p>② 玉湯水道事業の有収率は、低下傾向が続いておりましたが、H22年度上期の漏水調査等によって漏水量の多い漏水を数か所で発見、修理したこと、これまで年次的に石綿セメント管を更新してきたことなどによってH22年度下期からは、その効果が表れ始めております。</p>

<p>化を図られ、玉湯水道事業のみならず、全水道事業にわたる水道サービスの維持と有収率の更なる改善に努められたい。</p>	<p>その結果、平成 22 年度の有収率は前年度を 1.5 ポイント程度上昇する見込みとなりました。</p> <p>松江事業、鹿島事業につきましては、引き続き高有収率を維持しており、平成 22 年度の 3 事業合計有収率は昨年度以上になるものと推測しております。</p> <p>引き続き、漏水調査を実施し漏水防止対策を講じるとともに、老朽管更新を計画的に行い、玉湯水道事業をはじめ、松江事業、鹿島事業ともに有収率の向上に努めるとともに水道サービスの向上に取り組んでまいりたいと考えております。</p>
<p>(2)ガス局 (ガス事業会計)</p> <p>① 今期は業務用厨房料金メニューを設定した営業活動など、これまでにない新たな取り組みを実施され、そのことが新規の顧客獲得に結びついている。今後ともきめ細かな営業活動を継続して、新規獲得とともに既存顧客のガス離れを防ぎ、都市ガス普及率と収益力の向上に努められたい。</p> <p>② 平成 22 年 4 月実施された都市ガス料金の改定や開発費の繰延勘定償却が終了したことなどにより今年度は単年度での黒字決算を見込まれているが、今後は事業の民間移譲に向けて企業価値を高めていくことが必要であり、更なる人員配置の見直しや業務の委託化に段階的に取り組み、固定費の削減に努力されたい。</p> <p>③ ガス製造設備及び供給設備については、定期的な点検整備、経年管の計画的更新、遠隔監視システムの運用などに取り組まれている。突発的な災害発生に備えた体制の整備や実効性のある緊急時処置訓練を実施するなど、更なる保安確保に万全を期されたい。</p>	<p>(2)ガス局 (ガス事業会計)</p> <p>① 新規顧客獲得については、他燃料と比較して割安感のある新たな料金メニューを作るとともに、最新のガス機器の利便性・安全性を PR し、ガスの普及拡大に努めます。</p> <p>また、既存の顧客に対しては、経年ガス機器をご使用のご家庭に重点を置きながら、継続的に個別訪問を行い、他燃料への流出防止に努めます。</p> <p>なお、ガス機器の購入については、顧客による取得が容易となるよう、関連会社と連携して新たに割賦方式を導入いたします。</p> <p>② 簡素で効率的な組織運営に努め、外部委託の推進を引続き進めることで、より一層の経費削減を進めてまいります。</p> <p>③ 防災訓練マニュアルに沿った訓練を実施し、緊急時の対応に努めるとともに、保安面においては、24 時間の保安体制を堅持してまいります。</p>

<p>(3)交通局（自動車運送事業会計）</p> <p>① 定期旅客運送事業については、前年度上期と比べて輸送人員・収益ともに増加している。なかでも定期券利用者は大きく増加しており、これは高校生の通学定期券購入枚数が伸びたことによるものである。平成22年4月1日に実施されたダイヤ改正においては、事前に把握されたこのニーズを反映されており、利便性が向上することによって一定の成果が出たものと考えられるところである。今後とも常に、路線やダイヤの検証・分析を行い、利用者の視点に立った見直しに取り組み、固定客の増加につなげていくよう努められたい。</p> <p>② 貸切旅客運送事業については、近距離輸送業務を積極的に受注されたことにより、収益を確保されているが、これまで継続的に受注されていた大口業務が今後なくなることが予定されている。今後とも経済情勢や顧客ニーズの動向などを十分に注視しながら、積極的な営業展開によって収益確保を図られたい。</p> <p>③ バス事業に対する取り組みにあたっては、現場の最前線に立つ運転士をはじめとして、全職員間の意思疎通を大切にしながら、常に情報を共有化するなど、アイデアの創出につながりやすい風通しの良い組織運営に努められたい。</p>	<p>(3)交通局（自動車運送事業会計）</p> <p>① 平成23年4月1日に一畑バスが運行していた2路線の移譲に伴うダイヤ改正を行い、利便性の向上に努めました。</p> <p>また、23年度の事業になりますが、バス停に「ソーラー式LED照明」を試験的に設置し、待合環境の向上を図り、乗継に便利な新商品「一日乗車券」の発売と併せて、利用者の増加に取り組んで参ります。</p> <p>② 平成20年より受注していた団体貸切輸送の終了に伴う収益の減少を最小限に抑えるため、引き続き遠足等の近距離輸送や学校関連、開府400年博等の受注に営業担当を中心に努めて参ります。</p> <p>③ 例月2回の定例会議や運転士の班会議等を通じて、引き続き情報の共有化を図り、職員の提案制度の積極的な活用と併せ、垣根のない職場作りに努めて参ります。</p>
<p>(4)市立病院（病院事業会計）</p> <p>医療の安全については、ヒヤリハット事例を収集し対策を検討されるなど、事故の防止に努められており、今後ともその取り組みを継続発展させられたい。同時に研修などを通して職員の接遇等来院者の視点に立った顧客サービスの向上を図られ、病院全体での質の高い医療サービスの提供に努められたい。</p>	<p>(4)市立病院（病院事業会計）</p> <p>平成19年度より医療安全管理室を新設し、専従のリスクマネージャーを配置したうえで、ヒヤリハット事例の情報の共有化を進めてきたところです。</p> <p>現在では、年間約2,400件のレポートの報告ができるようになりました。また、年2回全職員を対象に実施する医療安全研修には97%の職員が参加するなど、職員の間にも小さなヒヤリハット事例報告を積み重ねることが、重大な事故を未然に防ぐことに繋がるといった意識が定着してま</p>

いりました。

今後は、医療安全管理室で副院長、リスクマネージャー、薬剤師、臨床工学技士、看護師、事務職員のメンバーで週1回実施しているカンファレンスをより一層充実させるとともに、医療安全管理委員会での情報の共有化や、ヒヤリハット事例をより詳細に分析し、現場へフィードバックするなど、安全管理の質の向上に努めてまいりたいと考えております。

また、平成23年4月からは、新たに専従の看護師を配置した感染対策室を設置し、病院全体での組織的な感染対策を行うこととしております。

一方、患者サービスの向上の観点では、平成23年3月7日、8日の2日間計4回にわたり、医師をはじめ、委託職員にいたるまで当病院で働く全職員を対象とした接遇研修を実施いたしました。

参加者は短期間の開催でしたが、約460名と多数の出席があり、接遇に対する関心の高さがうかがえました。今後とも定期的に接遇の研修の実施などを計画し、サービス向上に努めてまいりたいと考えております。